

○普及に移す技術

[タイトル] 斑点米カメムシ類およびウンカ・ヨコバイ類に対する有効薬剤

[要約] スルホキシミン系の新規殺虫剤エクシード剤は、斑点米カメムシ類に対する防除効果が高く、スタークル剤、キラップ剤と同等に斑点米被害を抑えることができる。また、ツマグロヨコバイおよびヒメトビウンカに対する防除効果も高い。

[キーワード] 斑点米、カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ、有効薬剤

[担当場所・課] 農林水産総合技術センター・農業研究所・病理昆虫課

[連絡先] 電話 076-429-5249

[背景・ねらい]

本県では、早生品種を中心に斑点米カメムシ類による玄米の品質低下が問題となっているが、近年、本田防除では、スタークル剤（ネオニコチノイド系殺虫剤）とキラップ剤（フェニルピラゾール系殺虫剤）の2剤の使用頻度が高いことから、薬剤抵抗性の発達が懸念されている。

そこで、新たに開発されたスルホキシミン系殺虫剤であるエクシード粉剤 DL、エクシードフロアブルの斑点米カメムシ類およびウンカ・ヨコバイ類に対する防除効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 エクシード剤の斑点米カメムシ類に対する防除効果は、スタークル剤、キラップ剤と同等に高く、特にカスミカメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）に対する効果が高い（図1、2）。
- 2 エクシード剤はツマグロヨコバイおよびヒメトビウンカに対する防除効果が高い（図3、4、5）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 斑点米カメムシ類の防除対策として、カスミカメムシ類の発生が優占する地域・水田での本剤の使用が有効である。
- 2 登録内容を確認し、防除適期に、所定の濃度の薬剤を規定量処理する。
- 3 薬剤抵抗性の発達を防止するため、異なる系統の薬剤をローテーションで使用する。
- 4 防除後も水田内のすくい取り調査を行い、カメムシ類を確認した場合、直ちに追加防除を実施する。

[具体的データ]

【粉剤】

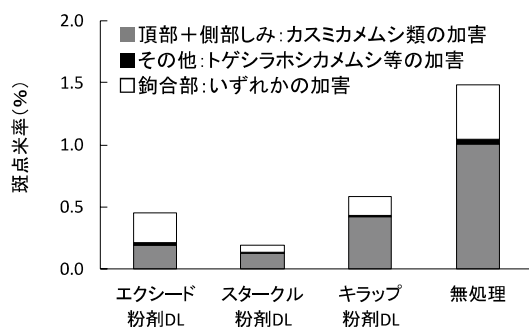


図1 斑点米カメムシ類に対する各粉剤の防除効果(2019年)

注) 品種: てんたかく (出穂期 7/22)、カメムシ類: 多発生
畦畔雑草管理を省略し、カメムシ類が発生しやすい条件に設定
出穂3日後、10日後の2回処理 (3 kg/10a)

【液剤】

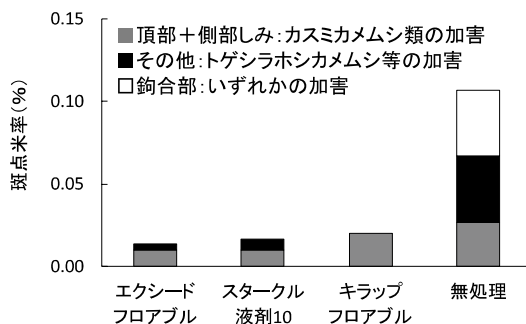


図2 斑点米カメムシ類に対する各液剤の防除効果 (2018年)

注) 品種: 富富富 (出穂期 7/30)、カメムシ類: 中発生
畦畔雑草管理を省略し、カメムシ類が発生しやすい条件に設定
出穂4日後の1回処理 (エクシード剤は 2,000 倍液、
スタークル剤およびキラップ剤は 1,000 倍液を 150L/10a)

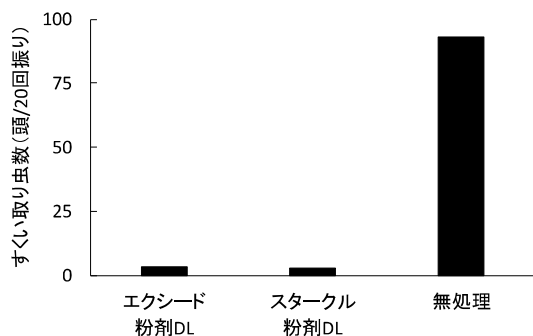


図3 ツマグロヨコバイに対する各粉剤の防除効果 (2019年)

注) 品種: てんたかく (出穂期 7/22)
出穂3日後、10日後の2回処理 (3 kg/10a)
2回処理8日後に調査

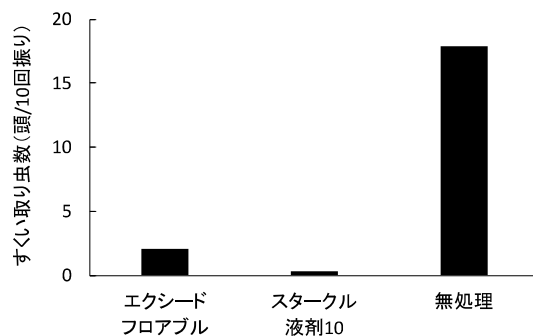


図4 ツマグロヨコバイに対する各液剤の防除効果(2018年)

注) 品種: 富富富 (出穂期 7/30)
出穂4日後の1回処理 (エクシード剤は 2,000 倍液、
スタークル剤は 1,000 倍液を 150L/10a)
1回処理7日後に調査

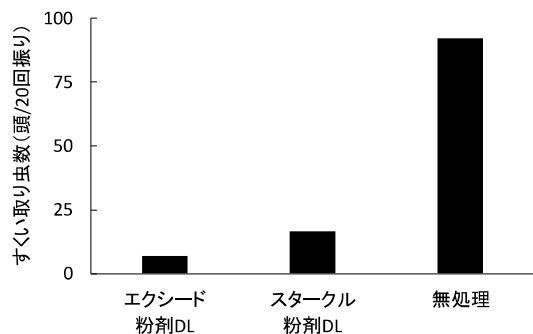


図5 ヒメトビウンカに対する各粉剤の防除効果 (2019年)

注) 品種: てんたかく (出穂期 7/22)
出穂3日後、10日後の2回処理 (3 kg/10a)
2回処理8日後に調査

[その他]

研究課題名: 斑点米カメムシの制御技術開発、難防除病害虫対策試験

予算区分: 県単

研究期間: 2019年度 (2016~2022年度)

研究担当者: 黒田貴仁、青木由美

発表論文等: 第72回北陸病害虫研究会 (口頭)